

令和5年度 FD・SD活動報告書

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取り組み

教員相互授業参観による教員の取り組み

FD・SD研修活動

令和6年3月31日

宇都宮短期大学
自己点検・評価委員会

目 次

I. 令和5年度学生による授業改善のためのアンケート全体集計結果（時系列）	
【音楽科】 【人間福祉学科】 【食物栄養学科】	2
	2
II. 令和5年度授業改善のアンケート、教員相互授業参観及びFD・SD活動のまとめ	2
II-1 学生による授業改善のためのアンケート	2
II-2 教員相互授業参観による取り組みについて	3
II-3 令和5年度の授業改善アンケートの結果と教員相互授業参観およびFD活動の取り組みの総括	4
【音楽科】	
【人間福祉学科】	4
【食物栄養学科】	5
	7
II-4 令和5年度SD研修会への取り組みの総括	9
III. 令和5年度FD・SD研修会	1
【音楽科FD研修会】	0
(1) 音楽科第1回FD研修会	10
(2) 音楽科第2回FD研修会	
【宇都宮短期大学（宇都宮共和大学）FD・SD研修会】	10
(1) 宇都宮共和大学・宇都宮短期大学FD・SD研修会 テーマ「若人の特徴を活かした指導方法」	
(2) 2023年度全学キャンパス・ハラスメント防止・啓発研修会 「キャンパス・ハラスメント研修会」（オンラインにて）	
(3) 宇都宮短期大学（宇都宮共和大学）FD・SD研修会 タイトル 情報セキュリティ研修会	
(4) 宇都宮短期大学（宇都宮共和大学）FD・SD研修会 （国立研究開発法人科学技術振興機構）研究公正ポータル	
(5) 宇都宮短期大学（宇都宮共和大学）FD・SD研修会 専任教員による令和6年度シラバスチェック	
IV. 令和5年度SD研修会	11
(1) 関東私立短期大学協会R5年度私立短期大学入試広報担当者研修会	
(2) 令和5年度関東私立短期大学協会 教職員研修会	
(3) 私立短期大学教務担当研修会	
(4) 大学共通テスト電子出願システムの導入に伴う大学システムとの連携に関する説明会	
(5) 短期大学生調査及び短期大学卒業生調査データの活用セミナー	
(6) 日本私立学校振興・共済事業団	
(7) 令和5年度JAS A定例研修会	
(8) 令和5年度日本学生支援機構奨学金業務連絡協議会	
I. 令和5年度学生による授業改善のためのアンケート全体集計結果（時系列）	

【音楽科全体集計・時系列比較】

No.	設問文	そう思う・どちらかといえばそう思う									
		R5年度	前年比	R4年度	前年比	R3年度	前年比	R2年度	前年比	R1年度	前年比
1	教員の講義はよく聞き取れた	92.2%	△ 4.7	96.9%	△ 1.2	98.1%	2.4	95.7%	△ 0.1	95.7%	2.8
2	この授業の内容はよく理解できた	91.0%	△ 4.3	95.3%	0.3	95.1%	2.2	92.8%	△ 0.4	93.2%	6.2
3	知的関心・興味が深まった	91.2%	△ 4.8	96.0%	△ 0.4	96.4%	3.8	92.6%	0.1	92.5%	6.7
4	教員は質疑応答の機会を適切に作った	90.8%	△ 2.4	93.3%	△ 2.3	95.6%	2.9	92.7%	0.1	92.7%	3.2
5	マナーの悪い学生に対する指導は適切であった	84.6%	△ 5.1	89.7%	△ 0.8	90.4%	1.2	89.2%	△ 2.1	91.3%	5.2
6	教科書・資料などの教材は適切であった	93.4%	△ 3.5	96.9%	0.5	96.4%	1.2	95.2%	1.8	93.4%	2.1
7	私は、この授業に積極的な関心をもっている	92.2%	△ 2.0	94.2%	△ 1.3	95.5%	5.3	90.2%	△ 2.6	92.8%	8.3
8	私は、学生としてのマナーを守った	95.3%	△ 0.9	96.2%	△ 0.5	96.7%	3.8	93.0%	1.8	91.2%	1.6
9	私は、この授業の予習あるいは復習をした	76.6%	0.8	75.8%	△ 0.8	76.7%	2.9	73.7%	2.0	71.8%	0.5
10	私は、この授業を受講してよかった	90.4%	△ 3.5	93.9%	△ 0.3	94.2%	0.3	93.9%	0.1	93.8%	5.7

【人間福祉学科全体集計・時系列比較】

No.	設問文	そう思う・どちらかといえばそう思う									
		R5年度	前年比	R4年度	前年比	R3年度	前年比	R2年度	前年比	R1年度	前年比
1	教員の講義はよく聞き取れた	96.2%	△ 1.2	97.4%	2.0	95.4%	1.6	93.8%	1.8	92.0%	4.1
2	この授業の内容はよく理解できた	92.1%	△ 1.1	93.2%	△ 0.5	93.7%	2.9	90.8%	3.4	87.5%	6.7
3	知的関心・興味が深まった	92.5%	△ 1.9	94.4%	2.2	92.2%	2.7	89.5%	1.9	87.6%	5.0
4	教員は質疑応答の機会を適切に作った	89.7%	△ 1.6	91.3%	△ 0.5	91.9%	1.5	90.3%	3.4	86.9%	7.0
5	マナーの悪い学生に対する指導は適切であった	81.5%	△ 4.5	86.0%	△ 1.5	87.5%	7.2	80.3%	△ 0.8	81.1%	3.4
6	教科書・資料などの教材は適切であった	94.3%	△ 1.5	95.8%	1.1	94.7%	2.0	92.6%	0.4	92.3%	7.6
7	私は、この授業に積極的な関心をもっている	91.0%	△ 0.3	91.3%	△ 0.0	91.3%	3.1	88.2%	1.5	86.8%	8.2
8	私は、学生としてのマナーを守った	94.1%	3.8	90.2%	△ 1.3	91.6%	1.9	89.6%	△ 0.7	90.3%	8.5
9	私は、この授業の予習あるいは復習をした	65.7%	1.4	64.3%	△ 1.6	65.9%	3.9	62.0%	5.0	57.0%	5.1
10	私は、この授業を受講してよかった	92.7%	△ 0.1	92.8%	△ 0.2	93.1%	1.2	91.8%	0.9	90.9%	6.7

【食物栄養学科全体集計・時系列比較】

No.	設問文	そう思う・どちらかといえばそう思う									
		R5年度	前年比	R4年度	前年比	R3年度	前年比	R2年度	前年比	R1年度	前年比
1	教員の講義はよく聞き取れた	91.9%	△ 1.5	93.4%	4.0	89.4%	△ 2.1	91.5%	2.5	88.9%	
2	この授業の内容はよく理解できた	88.0%	△ 2.6	90.6%	4.8	85.8%	0.1	85.7%	0.6	85.1%	
3	知的関心・興味が深まった	89.2%	△ 2.5	91.7%	6.0	85.7%	△ 1.0	86.7%	3.7	83.0%	
4	教員は質疑応答の機会を適切に作った	86.4%	△ 4.1	90.5%	2.5	88.0%	△ 2.0	90.0%	5.5	84.5%	
5	マナーの悪い学生に対する指導は適切であった	86.7%	△ 4.0	90.8%	5.5	85.3%	△ 1.3	86.6%	9.7	76.9%	
6	教科書・資料などの教材は適切であった	90.7%	△ 3.5	94.2%	5.2	89.0%	△ 2.7	91.7%	3.5	88.2%	
7	私は、この授業に積極的な関心をもっている	89.2%	△ 2.1	91.3%	4.6	86.7%	0.9	85.8%	1.5	84.3%	
8	私は、学生としてのマナーを守った	90.9%	△ 4.7	95.6%	4.9	90.7%	△ 0.6	91.2%	8.4	82.9%	
9	私は、この授業の予習あるいは復習をした	80.0%	△ 2.1	82.1%	9.8	72.2%	△ 2.5	74.7%	13.5	61.2%	
10	私は、この授業を受講してよかった	89.3%	△ 4.8	94.2%	6.1	88.0%	△ 2.1	90.2%	2.6	87.6%	

II. 令和5年度授業改善のアンケート、教員相互授業参観及びFD・SD活動のまとめ

音楽科 学科長 新井 啓泰
 人間福祉学科 学科長 堀 圭三
 食物栄養学科 学科長 百田 裕子
 事務局長 江田 壮一

宇都宮短期大学の音楽科・人間福祉学科・食物栄養学科では、FD活動の一環として、毎年、学生による授業改善のためのアンケートを実施して、教員の授業改善に対する取り組みを図っている。また、FD・SD研修として、研究倫理やキャンパス・ハラスメント、喫緊の課題に対する研修会を開催して、教育・研究活動の円滑な実施と、教育の質の向上に努めている。さらに、昨年度後期の教員相互の授業参観に引き続き、自己の担当科目の授業方法を客観的に見直し、改善の一助とすることで、教育の質の向上を図ることを目的として、「教員相互授業参観を通して、教授方法を学ぶ」FD活動を今年度も後期に実施した。

本報告は、学生による授業改善のためのアンケートを受けた教員の「授業評価改善アンケート」、「教員相互授業参観報告書」及びFD・SD研修会について、各教員の報告をもとにまとめたものである。

以下、令和5年度FD報告書の概要について述べる。

II-1 学生による授業改善のためのアンケート

1. 授業改善のためのアンケートについての基本的な考え方

学生による授業改善のためのアンケートについては、以下のような基本的な考え方に基づいて実施している。

(1) 学生アンケートは組織的・継続的な授業改善の出発点である。

- (a) 「教員個々人の結果への解釈と考察の主體的判断」と「大学としての認識の共有化」が目的である。結果は授業の難易度、学生の授業態度、その日のクラスの雰囲気等によって大きく変化するものであり、他の教員や平均点と比べての相対評価は無意味である。継続的な実施・改善による傾向値としての、宇都宮短期大学全体としての数値向上を目指すことが重要である。
- (b) 学生の授業に対する受け取り方（反応）を数値で把握して、教員が自己の授業の特質を知ることには意義がある。結果は、学生の認識不足・受講態度の問題か、教員の改善点の問題なのかを分析するためのものである。
- (c) 結果の数値が低い場合は、学生と教員との間に何らかのコミュニケーションギャップがあるものと考えられる。一般的には、学生の理解度が高い科目（教員）は、その他のアンケート項目においてもスコアが高い傾向がみられる。

(2) 授業の均質化や没個性化を回避し、「誠実」かつ「公平」に学生に対応し、教養育てるために活用するものである。

- (a) 個々の教員の人柄・見識・人生観が個性であり、そこに意味がある。
- (b) 授業における時間厳守、規律、表現力、質問への対応は、即ち教員の授業に対する熱意の表れでもある。一方、このような教員の熱意は、学生の授業態度に現れるものでもある。全教員が熱意をもって授業に臨むことは、必然的なことである。

2. 授業改善目標について

本学では、毎年、授業改善目標を定め、全教員が一致して授業改善に取り組んでいる。令和5年度は、令和4年度の目標を継続して行うこととした。

令和5年度の授業改善目標

成績の評価方法基準に基づいた「学習の成果」を獲得する授業を行う！

1. 教員の基本的な姿勢
学生との親密な信頼関係を育て、ともに学び合う授業を展開する。
2. 学生への指導目標
学生が自ら学ぶ姿勢を育む。
3. 教員の具体的な行動目標
 - ・必要に応じて、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実践する。
 - ・準備学習（予習・復習）の意義を理解させ、実践する。
 - ・図書館の利活用を促進する。
 - ・クロムブックを活用した指導をする。

3. 教員の授業改善のためのアンケートの項目について

本報告書における教員の授業改善のためのアンケートの項目は、以下の通りである。

- ① 科目の到達目標（学習の成果）と授業内容の工夫について（これまでの努力・改善等）
- ② 令和5年度授業評価アンケート（学生）とそれに対するコメント

- ③ 授業改善の課題と具体的方策
- ④ 令和5年度授業の評価と考察（まとめ）
- ⑤ 令和5年度FD活動“授業改善目標”を踏まえた教員としての授業評価と考察

II-2 教員相互授業参観による取り組みについて

本学では、自己点検評価推進部会細則の任務として、教員相互授業参観の実施を計画し、教員の質の向上を図ることを掲げている。教員相互の授業参観は、今年度も昨年度に引き続き、後期に「教員相互授業参観を通して、教授方法を学ぶ」として、自己の担当科目の授業方法を客観的に見直し、改善の一助とすることで教育の質の向上を図るために実施した。実施後は、次の項目について報告書を作成・提出した。

- ① 参観した日時・講義名・教員名
- ② 参観の概要
- ③ 感想、自己の担当科目の授業における改善策等について
- ④ 今年度の教員相互授業参観によるFD研修の実施方法の改善点について

II-3 令和5年度の授業改善アンケートの結果と教員相互授業参観およびFD活動への取り組みの総括

【音楽科】

音楽科 学科長 新井 啓泰

(1) 令和5年度 授業改善のためのアンケート評価について

令和5年度の音楽科前期・後期の集計（そう思う・どちらかといえばそう思う）の10項目の平均値は89.8%であった。これは昨年の平均値94.7%（一昨年93.5%）と比較して、低い結果となっている。

個別に見ると、前・後期を平均して1授業についての設問のうち、評価の高かった項目は、⑥「教科書・資料などの教材は適切であった」93.4%、①「教員の講義は良く聞き取れた」92.2%、③「知的関心・興味が深まった」91.2%、②「この授業の内容はよく理解できた」91.0%と続く。このことから、教員は適切な教材を用いて、明瞭かつ分かりやすい口調で、学生の関心や興味を引き出しながら授業を展開できている、と判断できる。また、項目⑨「私は、この授業の予習あるいは復習をした」が76.6%と、前年度に比べて微増ではあるものの（75.8%）、改善された結果となっている。

次に、2 あなた自身の受講について、評価が最も高かったのは、⑧「私は学生としてのマナーを守った」95.3%、⑦「私はこの授業に積極的な関心を持っている」92.2%、⑩「私は、この授業を受講してよかった」90.4%であった。学生は真摯で積極的な態度で授業を受けられており、授業への満足度が高いと言える。

学生に評価された点を維持しながらも、全体として向上できるよう、各教員の更なる研鑽を促したい。

(2) 授業改善の具体的方策について

大いに反省すべき点は、項目⑤「マナーの悪い学生への指導は適切であった」が84.6%と、前年度に比べて（89.7%）、他の設問に比べても低い結果となっている。一方では、⑧「私は学生としてのマナーを守った」が95.3%と高くなっている。

授業におけるルール、モラルなどを教員が明確に示すよう、教員側の心がけを図っていききたい。具体的には、講師会等において、第一回目の授業における授業の方針の説明や提出物等のルールなど、必要なマナー指導を丁寧に行うよう教員に促していく。

(3) 授業改善目標について

1. 教員の基本的な姿勢

- ・学生との親密な信頼関係を育て、ともに学び合う授業を展開する。

教員の記述を確認し、全員が「概ねできていると考える。」と振り返っており、達成度は高かったとみえる。指導の中で、進度別クラスの対応や担任レベルの対応など、またそれぞれの科目で動画やクロムブックの使用など実施方法を工夫していることがうかがわれる。学生とのマナー指導の徹底も含めてさらに向上していきたい。

2. 学生への指導目標

- ・学生が自ら学ぶ姿勢を育む。

事前事後学習はシラバスへの追記も含め、教員への意識向上がみられ、アンケートでも改善がみられた。実技におけるレッスン簿についても定着し、学生との学習に関する共通意識が持っている。小テストやフィードバックを積極的に行っており、学習成果の可視化により尽力していきたい。

3. 教員の具体的な行動目標

- ・必要に応じて、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実践する。

音楽科の科目では演習系の授業が多い。より実践的で将来の進路に役立つアクティブ・ラーニングが工夫されて展開されており、それぞれの学生が自ら発言、発表する積極的な態度を身につけている。

- ・準備学習（予習・復習）の意義を理解させ、実践する。

シラバス改訂などにより、事前事後学習への取り組みは改善されつつあり、教員の意識向上がみられる。アンケート上の数字だけでなく、授業内容と循環しながら定着し、学習成果の獲得に具体的につながるよう、さらに徹底していきたい。また、振り返りの時間やフィードバックを具体的に設けていきたい。

- ・図書館の利活用を促進する。

教材等が年々充実している図書館の利活用に関して、具体的に授業で利用するなど取り組みがみられた。資料活用方法の向上など、学習方法の向上にもつなげていきたい。

（4）令和5年度教員相互授業参観について

FD活動の一環としての教員による相互授業参観を、今年度は後期に実施した。

参観した教員は、自分以外の授業を知ることで、授業スキルや、指導の観点を見直す機会となっている。また、学生からどのような学びの意欲を引き出せるか、成長できたかなど、教員間でのコミュニケーションを取る機会にもなっている。それぞれ専門性の高い授業なので、自分以外の専門的観点から学べることも多いようである。より質の高い授業の力をつけられるよう、引き続き実施していく。

（5）令和5年度のFD活動について

宇都宮短期大学及び宇都宮共和大学との共催のFD・SD研修会では、自己点検・評価活動について、及び認証評価へ向けた報告書の書き方について学んだほか、情報セキュリティ、著作権など、実用的な内容の研修を受けることができた。ハラスメントや研究倫理の研修については、定期的に研修が開催されることで、専任教員が継続的に意識を持って運営することができている。また多くの非常勤講師を抱える本学科において、講師会等の際に、ハラスメントや研究倫理等についての注意喚起、資料の配布等につなげている。

令和5年度音楽科主催のFD研修としては、8月にピアデュオ・ドゥオールによる「二人が解き放つ光のハーモニー ピアノデュオの極意」と題したピアノ研修会、また2月に本学特別講師の菅原望先生によるレクチャー&コンサート「学びの道のり～時代の音を辿る～」を通して、を実施した。

藤井隆氏と白水芳枝氏によるピアノデュオ「ドゥオール」は、日本全国、また世界でも活躍する、ピアノデュオの日本の先駆けとも言える二人である。二人で一つの世界を創造する音楽の壮大なパノラマとトークの楽しさで、参加者に連弾や二台ピアノの魅力を存分に伝えてくださった。

また、本学特別講師の菅原望先生のレクチャー&コンサート「学びの道のり～時代の音を辿る～」では、バッハのインヴェンション全曲演奏を中心に、セヴラックやショパンのキャラクターピース（性格的小品）を並べられ、スタイルの音色の違いを魅力的に描かれた。音楽科教員は2つのFD研

修を通して、演奏スタイルによる可能性や、学習的なものから個性が輝く作品まで音楽の魅力の引き出す具体的な手法など、大きな学びを得たものと思う。日頃の教育活動・研究活動がより充実するよう、今後もFD研修を計画・実施し、学生への還元を図っていきたい。

【人間福祉学科】

人間福祉学科 学科長 堀 圭三

(1) 令和5年度 授業改善のためのアンケート評価について

学生の授業改善アンケートの結果から、人間福祉学科全体を時系列にみた数値では、令和4年度に比べて令和5年度の結果は、若干ながらポイントが低下した。とくに今年度は、「この授業の内容はよく理解できた」が1.1ポイント、「知的関心・興味が深まった」が1.9ポイント、「質疑応答の機会を作った」が1.6ポイント減少した。とくに「マナーの悪い学生に対する指導は適切であった」が4.5ポイントの減少になったことは、教育目標でもある「学生との親密な信頼関係を育て、ともに学び合う授業を展開する」環境にも影響を与えることにもなるので、学科として改善していきたい。

また、「この授業の予習あるいは復習をした」については、1.4ポイントと僅かながら増えたことは、ガイダンスでの指導や各授業での課題の出し方の工夫などがこの結果につながっているものと考えられる。引き続き学生の授業改善のためのアンケートを踏まえて、教員としても工夫を重ね、一層の評価改善を継続して繰り返していくことが必要だと考える。

(2) 授業改善の具体的方策について

各教員からは、アンケート結果を踏まえ具体的な方策が示されている。

「アクティブ・ラーニングの授業方法の改善を図ること。・事前課題の授業利用、リアクションペーパーのフィードバックを行うこと。・アサイメントは、学生の日常生活と学生生活の負荷を把握しながら、量と質を調整する。」

「近年の学生の傾向として、思っていることをなかなか積極的に発言しなかったり、援助の対象への共感度が低かったりすることが増えており、どうすれば思っていることを発言してくれるのか、また、課題を抱えている人や、社会に対して「自分ごと」としてとらえてもらえるのか、そこがもっとも悩ましいところである。そのため、より身近に感じられるような教材として、動画やまんがなども使用しているが、そのように「事例」を多数用意すると、どうしても時間がとられ、もともと用意されている内容をすべて網羅することが難しくなってしまう。そのため、次年度については、数は減らしつつも、より身近に感じられる教材を探して提示していく。」

「マナーへの注意については、配慮のある注意を心掛けることと、双方向の活動を取り入れるなど主体的に取り組みたいと思える授業運営を目指したい。授業での学びを記述する授業記録を取り入れたことで、主体的に学ぶ姿勢がみられた。そこから学生の学びを確認することもできた。今後、習熟に合わせて自ら学ぶような促しを工夫したいと思う。また、文献の紹介や活用、図書館の活用の促しを継続しつつ、今年度の課題を少しでも改善したいと思う。」

これら各教員がそれぞれの授業において工夫することで、学科全体としても、また学生自身も学びの理解度は高まると思われる。

(3) 令和5年度の授業改善目標について

今年度の目標は、成績の評価方法基準に基づいた「学習の成果」を獲得する授業を行う！ことであった。

学習成果とは、学生がそれぞれの授業において具体的な知識・技術・態度などを身につけることである。各授業科目のシラバスでは学習成果（到達目標）を明記し、授業を展開している。

本年度の授業改善目標を踏まえた各教員の主な取り組みは以下のようなものであった。

教員の基本的な姿勢としては、「学生の気持ちを理解しようとして、できるだけわかりやすい教材

を用いて授業を実施した。しかし、まだまだ工夫の余地があると思われるため、より一層、学生が理解しやすい授業としていく」であるとか、「学生が安心した学べる環境を意識した。教員が、話し方や学生とのやりとりの方法などを適切に行うことと、学生同士の意見共有なども建設的な形で行えるよう心掛けた」などの意見があげられた。

また、学生への指導目標としては、「学生の生活にかんがみると、時間をかけた予習や復習は、難しい。なるべく短時間でも関心をもって取り組める予習材料を工夫していく」や「ループリック評価を示すことで、その科目での成果を理解することを促した。また、授業内容と連動した自主学习シートを活用したことにより、より科目の目的に対する理解を自主的に深めて取り組んでいる様子がみられた」などの意見があった。

教員の具体的な行動目標としては、「準備学習については、フィードバックはこれまで通り実施する。また、図書館については、資料の提示や情報検索の方法なども含めて、時折、授業内外で、学生をつれて利用を促進していく」という意見や「アクティブ・ラーニングやクロムブックの活用は、進めることができた」、「アクティブ・ラーニングについても、演習系の科目では行っており、今後、他の科目でも実施を試みていく」といった意見があった。

学科としては、概ね授業改善目標を意識した授業を行っており、その成果も出ているので、継続していきたいと思う。

（４）令和５年度教員相互授業参観について

今年度後期の授業期間に教員相互授業参観を行った。他の教員の授業を通して、自身の授業改善にも繋がったことが確認された。主な意見は次のとおりである。

「色彩豊かなレジュメと、ワークシートを用いたアクティブ・ラーニング形式での授業をされていた。クロムブックを活用しワークシートに取り組みながら、学生の主体性、思考と創造を促す授業展開であると感じた。進度差を埋めるために動画も活用されていた。自身の担当科目においても、学生の集中力と主体性、思考力、創造を育み達成感が得られるような講義を意識して展開していきたい。」

「授業中に受講生どうしの話し合いや発表の場を設け、また発表の内容をもとに、さらに授業の内容を深めるなど、多くの点で参考になった。可能な範囲で自分の授業にも取り入れていきたい。」

「自分も動画を活用することがあるが、先生の使われた動画は、視聴覚教材として用意された大変わかりやすくポイントを押さえたものであり、今後、同様の種類の動画を探して活用し、学生の理解を深めていきたい。」

また、実施方法については、「予定を立てにくいので、隔年でも良いのではないか」や「外部講師による講座などもよいのではないか」との意見があった。

（５）令和５年度のFD活動について

今年度もFD研修会を行ってきたが、そのなかで、「研究倫理」研修と「シラバス確認作業」について取り上げる。

教員の教育・研究活動において、「研究倫理」は最も大切なことであることを再認識した。「研究倫理」違反は、研究者自身だけでなく、所属する教育機関や学会にも大きな影響を与えるものである。

本研修の中でも、数多くの事例が紹介され、改めて、教育・研究の現場に立つものとしての責任を認識する機会となった。

また、シラバス確認作業では、全教員が分担してすべてのシラバスについてチェック表を用いて行った。いくつかのシラバスでは、誤字脱字、必要な項目が記載されていないものもあったが、概ね、シラバス作成要領に沿って作成されていた。3学科で確認しなければならないこととして、実習科目における予習・復習の記載の仕方については、統一した見解が必要である、との意見があった。

【食物栄養学科】

(1) 令和5年度 授業改善のためのアンケート評価について

今年度の食物栄養学科の結果は、質問項目全てにおいて「そう思う・どちらかといえばそう思う」との評価は昨年度より1.5～4.8%低下し、80.0～91.9%であった。回答率は、令和2年度77.1%、令和3年度80.9%、令和4年度は93.6%と上昇していたが、今年度は81.6%に減少している。この原因は、履修登録をしたものの途中で棄権した学生が例年に比べて多かったためと推察される。

項目別では、学生から教員の授業に対する質問項目で最も評価が高かったのは、①教員の講義はよく聞き取れた91.9%、次に、⑥教科書・資料などの教材は適切であった90.9%、③知的関心・興味が深まった89.2%と続いた。

一方、学生自身の授業に対する質問項目において高い評価を得た項目は、⑧私は、学生としてのマナーを守った90.9%、⑩私は、この授業を受講してよかった89.3%、⑦私はこの授業に積極的な関心をもっている89.2%と続いた。例年、最も評価の低い項目となっている⑨の私は、この授業の予習あるいは復習をしたについては、昨年度よりも2.1%低下し、80.0%となった。学生が主体的に学ぶ姿勢を育み、実践することが求められている。今年度は、事前・事後学習をすることの必要性をシラバスに記載するとともに、教員が課題を提供したことで、8割の評価となったものと思われる。来年度は、シラバスに毎回具体的に事前・事後学習内容を記載することになったことから、さらに、学生の学習意欲を高められることを願いたい。

(2) 令和5年度の授業改善目標について

成績の評価方法・基準に基づいた「学習の成果」を獲得する授業を行うために、教員自身の基本的姿勢、学生への指導目標と具体的な行動目標に従い、授業を実践していた。

1. 教員の基本的な姿勢

・学生との親密な信頼関係を育て、ともに学び合う授業を展開する。

学生の授業改善アンケート結果を踏まえた教員のアンケート結果からは、学習の成果を向上させるために、年々さまざまな工夫をされて実践している様子が見えてきた。特に、評価にルーブリック法を取り入れたことから、毎回の授業の成果を確認するために、ミニテスト等を取り入れることで、事前・事後課題が出され、学習成果を把握していた。アクティブ・ラーニングとなっている実験、実習、演習授業では、学生とコミュニケーションをとりながら授業を進めることで親密な信頼関係を形成することに繋がっていると思われるが、講義系では、学生からの質問もクラスルームによる質問が多くなり、オフィスアワーを設けても直接質問にくる学生は少なくなっている。この面では、対面での信頼関係づくりができにくくなっているのではないかと懸念する教員もいた。また、時間的余裕がなく、クラスルームを使用した提出物の返却が遅くなってしまっていることから、授業の中で質疑応答時間を設けて、信頼関係を築いていきたいと述べている。

2. 学生への指導目標

・学生が自ら学ぶ姿勢を育む。

教員は、事前・事後学習として課題を出し、ミニテスト、リアクションペーパーを活用して学習成果を確認しながら授業を進めて学生が自ら学ぶ姿勢を育てている。しかし、一部の学生は、積極的な姿勢がみえず、授業中に居眠りをしたり、提出物が遅れている者もいるとのことであった。特に、指定科目で1年生の一部でその傾向があるようであった。このような学生については、情報を共有し、教員全体で対応していきたい。

3. 教員の具体的な行動目標

・準備学習（予習・復習）の意義を理解させ、実践する。

令和4年度から、成績評価の基準と方法をシラバスに明記することになった。成績の評価において

評価項目が学習の成果に対応している。2年目になり、教員は毎回の学習内容で何を学ぶのか、そのポイントを毎回の予習・復習を促がし、ミニテスト等を実施して理解度を確認していた。ルーブリックによる評価の基準と方法の導入を入れたことで、学生と教員がどの内容を十分に理解しなければならないのかを明確にできるようになったと思われる。

・フィードバック等を通して、学習意欲を高める。

ミニテスト等では、フィードバックの方法は教員により異なったが、それぞれが学生にとり、より理解度を高めるための解説を丁寧にしたたり、解説書を配布したりしていた。また、レポート等の返却は、一部に返却時間がかかってしまったという教員もいたが、双方向で学ぶ姿勢を育むことを常に意識して努力している様子が見えられた。

・図書館の利活用を促進する。

図書館の利活用の促進については、例年教員からも反省があり、一部の教員は図書館所蔵の本を推薦しているが、利活用されていない。図書館の利用度も一部の学生にとどまり、今年度も他学科の学生に比べても食物栄養学科の学生の利用率は低かった。クロムブックやスマホの携帯により、インターネットを使用した情報収集となっている。インターネット情報も公的な研究機関等の情を参考にして、信頼できる情報かを確認することが大切であるため、この点を強調していきたい。一方で、クロムブックの活用は、授業だけでなく、各種提出物の作成や発表資料のまとめなどを含めて、有効使用しているようである。

・必要に応じて、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実践する。

食物栄養学科の実験・実習・演習科目は、アクティブ・ラーニングであり、これら科目は、グループでまたは友人と意見交換をしながら進められたようである。特に、2年生の食物栄養演習（ゼミナール）では、選択科目であるが半数の学生が履修し、担当教員の指導のもと、楽しく、意義ある教育研究を実践し、発表内容も素晴らしいものであった。これらの成果は、食育フェアやクリスマス・マーケット等のイベントで発表したり、レシピ集にまとめて配布したり、栃木県栄養士会主催の改善学会で発表した。学生にとっては、単なる授業内でのまとめでなく、外部に向けて発信することで、学びの楽しさを体験できたようである。引き続き、実践していきたい。

また、講義科目でも広い視野に立って情報収集を行ってまとめる、グループでまとめ合って発表するなど、必要に応じてアクティブ・ラーニングを取り入れていたことから、教員ひとり一人が意識して授業を展開している様子が見えられた。

（3）令和5年度教員相互授業参観について

今年度の教員相互の授業参観は、後期に実施した。各教員は、自己の専門分野に近い科目又は異分野の先生に依頼して授業参観をしていた。それぞれの教員が、学生へ担当科目の専門的理解を深めるために、科学的根拠をさまざまな工夫をして丁寧に教授していること、学生ひとり一人へ配慮をして授業準備を進めていることなどを学び、反省や改善の必要性を報告書に述べていた。また、今後は4年制大学の教員の授業参観を希望したいとの意見があった。教員の質の向上につながっていると思われる。

（4）令和5年度のFD活動について

今年度は、短大基準協会の認証評価受審のために、教学に関するFD研修は少なかったが、令和6年2月に開催した、教学マネジメント指針に基づく2024年度のシラバス作成に向けた「シラバスチェック－教員相互のシラバスチェックによる記載内容の確認」では、学科毎に、専任教員全員が全科目のシラバスを分担してチェックしたことは、学科の特性に合わせた評価方法の在り方や自己の担当するシラバスの書き方について、再認識するよい機会となったものと思われる。この結果をもとに、評価方法や学習成果の向上を図る記載方法について検討を深めていきたい。

また、キャンパス・ハラスメント防止・啓発や研究倫理、情報セキュリティ研修会は例年実施され

ているが、時代と共に人間関係や ICT 関係は変化しており、繰り返し研修を受けることが大切と思われる。ただ、今年度は、研修会実施後のアンケート調査が実施されたのは、5 件中 1 件であった。研修の効果・反省・改善点等を把握するためには必修のものと思われるので、このシステムを確実にものにする必要があると考える。

さらに、学科別では、教育の効果を図る研修を実施することができなかったことから、次年度は計画を立てていきたい。

II -4 令和 5 年度 SD 研修会への取り組みの総括

事務局長 江田 壮一

今年度の外部研修は、オンライン参加 7 回、内部研修を 1 回実施した。オンライン実施になったことにより外部への研修に参加しやすくなった。研修では管理運営や教育支援を含めた内容の研修で各人の資質向上等につながったと思われる。昨年度から、外部研修も本報告書に掲載することになった。これを機に、短期大学全体としての FD・SD 研修を共有し、教育の質保証の向上に努めていきたい。

Ⅲ. 令和5年度FD・SD研修会

【音楽科FD研修会】

(1) 8月にピアデュオ・ドゥオールによる「二人が解き放つ光のハーモニー ピアノデュオの極意」と題したピアノ研修会

日 時 令和5年8月

内 容 藤井隆氏と白水芳枝氏によるピアノデュオ「ドゥオール」は、日本全国、また世界でも活躍する、

ピアノデュオの日本の先駆けとも言える二人である。二人で一つの世界を創造する音楽の壮大なパノラマとトークの楽しさで、参加者に連弾や二台ピアノの魅力を存分に伝えてくださった。

(2) 本学特別講師の菅原望先生によるレクチャー&コンサート「学びの道のり～時代の音を辿る～」を通

して

日 時 令和6年2月

内 容 本学特別講師の菅原望先生のレクチャー&コンサート「学びの道のり～時代の音を辿る～」では、

バッハのインヴェンション全曲演奏を中心に、セヴラックやショパンのキャラクターピース（性格的小品）を並べられ、スタイルの音色の違いを魅力的に描かれた。音楽科教員は2つのFD研修を通して、演奏スタイルによる可能性や、学習的なものから個性が輝く作品まで音楽の魅力の引き出す具体的な手法など、大きな学びを得たものと思う。

【宇都宮短期大学（宇都宮共和大学）FD・SD研修会】

(1) 宇都宮共和大学・宇都宮短期大学FD・SD研修会

テーマ「若人の特徴を活かした指導方法」

対 象 学長・専任教員、関係事務職員

日 時 令和5年8月21日（月）15：00～16：00

場 所 宇都宮共和大学シティキャンパス 401号室

講 師 ㈱エイジェックススポーツ総合事業部長 辻 武史 氏

内 容 NPBと独立リーグを経験した男が取り組むキャリアサポート「地域で活躍する優秀な人材を」

(2) 2023年度全学キャンパス・ハラスメント防止・啓発研修会

「キャンパス・ハラスメント研修会」（オンラインにて）

研修期間 令和5年1月5日（金）～2月16日（金）

① 厚生労働省：職場におけるハラスメント対策研修「基礎知識編」を YouTube 動画で視聴（55分）

② 明るい職場応援団（厚生労働省ハラスメント対策総合サイト）

「ハラスメント オンライン研修講座」を YouTube 動画で視聴（15分）受講証明書を提出。アンケート調査実施

(3) 宇都宮短期大学（宇都宮共和大学）FD・SD研修会

テーマ 情報セキュリティ研修会

対 象 専任教員、事務職員

日 時 令和6年3月1日（金）13時40分～14時30分

講 師 長坂キャンパス 学務課長 正田 泰介

(4) 宇都宮短期大学（宇都宮共和大学）FD・SD研修会

(国立研究開発法人科学技術振興機構) 研究公正ポータル
研修期間 2月16日(金)～3月15日(金)
YouTube 動画を各自で視聴
テーマ 「倫理の空白Ⅱ盗用 人文・社会科学編」27分
事後アンケートを実施

- (5) 宇都宮短期大学(宇都宮共和大学)FD・SD研修会
専任教員によるチェックシートを用いたシラバス確認
日時 令和6年2月16日(金)13時30分～15時30分
出席者 全専任教員
研修内容 チェックシートを用いたシラバス確認。いくつかのシラバスでは、誤字脱字、必要な項目が記
載されていないものもあったが、概ね、シラバス作成要領に沿って作成されていた。

VI. 令和5年度SD研修会

- (1) 関東私立短期大学協会R5年度私立短期大学入試広報担当者研修会
日時 令和5年8月25日10:00～15:00(オンライン)
参加者 事務局 飯塚 敦
講演 「学生が集まるSNSの使い方」
講師 (株)Doorkei 経営企画室長 戸板女子短期大学 吉田 涼平 氏
講演 「短期大学を取り巻く学生募集環境の変化と、今後の対策について」
講師 BenesseGroup(株)進研アド 東京支社支社長 押田浩幸 氏
短期大学営業部部长 川辺尚也 氏
- (2) 令和5年度関東私立短期大学協会 教職員研修会
日時 令和5年10月23日(月)14:00～16:30
(オンライン)
参加者 事務局 江田 壮一
研修目的 充実した短期大学生生活の実現に向けて
講演2 「私立学校法の改正について」
講師 文部科学省高等教育局大学教育・入試課 課長補佐 中村 栄作 氏
- (3) 私立短期大学教務担当研修会
開催日時 令和5年10月27日(金)10:00～16:30
(オンライン)
参加者 事務局 佐柄順子
講演 「短期大学を取り巻く高等教育政策の状況について」
講師 文部科学省高等教育局大学教育・入試課課長補佐 中村栄作 氏
グループ別研修を実施
- (4) 大学共通テスト電子出願システムの導入に伴う大学システムとの連携に関する説明会
独立行政法人大学入試センター
日時 令和5年12月8日(金)10:30～11:30
(オンライン)
参加者 事務局 正田泰介、事務局 須藤拓義
- (5) 短期大学生調査及び短期大学卒業生調査データの活用セミナー

日 時：令和6年1月11日（木）15：00～16：30

（オンライン）

参加者 食物栄養学科長 百田裕子、事務局 須藤拓義

講 演 学生調査データを使った学修成果の可視化の重要性について

講 師 調査研究委員会 副委員長（同志社大学） 山田 礼子 氏

講 演 短期大学生調査及び短期大学卒業生調査のデータ活用事例について

講 師 調査研究委員会 研究協力者（桜美林大学） 堺 完 氏

調査研究委員会 研究協力者（桜美林大学） 宮里 翔大 氏

（6）日本私立学校振興・共済事業団 私学共済事務担当者研修会

日 時 令和6年1月31日（水）（東京ガーデンパレス） 9：30～16：30

参加者 菊池 早苗

内 容 「資格・短期」コース

（7）令和5年度JAS A定例研修会

日 時 令和6年2月2日（木）9：30～17：30

（オンライン）

日 時 令和6年2月3日（金）9：30～17：30

（オンライン）

参加者 事務局 正田泰介

講 演 政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準群の改定について

講 師 内閣官房 内閣サイバーセキュリティセンター政府機関総合対策グループ

内閣参事官 横田 一磨 氏 参事官補佐 山出 和豊 氏

（8）令和6年度日本学生支援機構奨学金業務連絡協議会

日 時 令和6年2月27日（火）13：00～16：00

（オンライン）

参加者 事務局 須藤拓義

議 題 令和6年度における新規事項及び変更点

貸与奨学金・給付奨学金に係る連絡事項

講 師 文部科学省による説明

以上